

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0473100469
法人名	特定非営利活動法人
事業所名	グループホームよつば荘
所在地	宮城県遠田郡美里町北浦一丁目59番地
自己評価作成日	平成 27年 10 月18 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成27年10月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆっくり、ゆたかに、ゆかいにのケア理念に基づきを家庭的で、笑いの絶えない家族のような関わりを行っている。食材も季節の素材で野菜中心にした手料理をしている、また民謡教室、スマイルカフェやカラオケ、レクレーションの行事も利用者様と生き生きと楽しんでいます。近くの公園散歩や朝市も楽しんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム前の川辺は散歩道になっており環境の良いところである。1階は定員6名のグループホームで、2階は宅老所として運営している。理念は8月に見直され、ゆっくりできる環境の中で、愉快地過ぎて、心豊かに生活が出来るよう支援をしている。スマイルカフェを6月より月1回開き、地域住民へ呼びかけ手作りお菓子で交流を持っている。参加者も増えて来ており、地域としっかり密着している。美里町との連携も良好で、協力医療機関の連携体制も整っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所:グループホームよつば荘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆったり、ゆかいに、ゆたかにの理念を踏まえ入居者、職員にという形にとられず家族様に通じている	職員全員で検討し、本年8月理念を見直した。ゆったりした環境でゆかいに過し、心ゆたかに生活ができるよう支援している。毎月ミーティング時、実践できているか振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会やレクレーション・外出等を行い地域交流としてスマイルカフェや民謡を行っている	町内会に加入し除草、清掃は職員代表が出ている。ホームの夏祭り、芋煮会、敬老会には近所の方を招待している。スマイルカフェは月1回開いている。民謡講師による民謡教室には入居者も参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民謡、運営推進会議やスマイルカフェ(月1回)にて地域の方々に共有している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催し情報交換話し合いを持つ機会を設けている	2ヶ月に1回定期的に開催されている。管理者から施設の状況報告、行事計画を伝えている。本年より民生委員も参加している。家族の参加を促すために、今後家族への関わりを深めることにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	解らない時や疑問に思ったことは担当者に聴き、意見交換をしている	町からは防火設備等の助成や生活保護等の手続きで指導を受けている。入居者増の相談など運営等の面での助言を得ている。外部評価にも同行した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を始め、目配り、声かけ、気配りを実践し入居者様の行動を把握し寄り添ったケアを務めている	帰宅願望の方には一緒に外出し、散歩で落ち着きを取り戻すよう支援している。家族の了解を得て不潔行為のある入居者の腹にタオルを巻くなどの対応をしている。それらを振り返り排泄状況を見直すなど新たな対応を見出していきたい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを徹底し家族様に接しているが言葉遣いや態度に気をつけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者参加、ミーティング、勉強会を実施している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個人情報や転倒に気をつけている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ミーティングで日々の業務の中で意見交換している	家族からの通院の付き添い依頼やオムツ代が高いなどの苦情があり、ハット併用するようにした。家族の運営推進会議への出席が少ないのが現状である。	家族とのコミュニケーション不足はホームでも認識している。運営推進会議への家族の出席を促すため、今後、輪番制を用いた方法を考えているので、その取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	報、連、相を主体に職員の意見を聴く機会を設けている	入居者の関わり方の意見が多い。ヒヤリハットの内容について話し合い、その都度ミーティングを行っている。寝たきりの方の体位交換、オムツのあて方を改善した。爪切りは看護師対応とした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理念や介護目標を基に改善点や意見があるときはお互いに出し合いより良い職場になるように務めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護研修に参加して頂き質の向上へと機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等意見交換や情報交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の生活の中で利用者様が不安なこと困っていること聴き家庭的な対応に心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の面接時など家族のかた個別に話し合う機会作り良い関係で接していけるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の状況を把握しニーズを検討し対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゆったり、ゆかいに、ゆたかにの理念を踏まえ入居者様に不安を和らげ安心して暮らせるように利用者様と関わりを持ち接しているよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の置かれている環境や状況を踏まえ関わりを持てるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	よつば荘新聞や来接時に情報交換している	駅前の朝市や買い物に職員と出かける。川辺の散歩道を歩くのが日課である。川で釣りを楽しむ人もいる。友人、親類の来訪時に誘われ馴染みの場所や店に出掛けている。妻の経営する飲食店前を通ってくる人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スムーズに行っていない時は一人ひとりの話を聴きながらサポートし歩み寄れるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前サービスを利用して頂いた家族のかたに事業に誘い来ていただいている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の自己決定を大切に引き出せるよう促しプランに検討している	生活歴を把握し、整髪、おしゃれの好みを尊重している。買い物の要望で好みの服を選んだり、本人本意の支援をしている。早起きの人には洗顔、ひげそり等その習慣に沿った支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ミーティング時に利用者さんの変化を話合いながら把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様に声がけしながら、心身の状況を聞かせて頂きながら現状に合ったケアに努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアを通して、スタッフとも情報交換しつつ本人の思いを引き出しながら定期的にモニタリングを行い、作成している	モニタリングは毎月行い評価は3ヶ月に1回、変化時は随時見直しをしている。退院時寝たきりであった方の離床を促すことを計画に取り入れ実践し、車椅子での生活に改善した。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の実施状況を日々記録し職員間で気共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の日々の変化に合わせ、その状況により、取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の意思決定を、促らせるような働きを大切にしながら、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	スタッフが一緒に付き添い受診している。直接、利用者さんの主治医と関わっている	かかりつけ医は職員が付き添い受診している。協力病院の夜間診療なく、救急対応となるが24時間対応のクリニックとも連携している。協力医やかかりつけ医とは連携が取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細なことでも、報告し合い適切な受診をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーなどを使い情報交換等の体制を整えてる		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態により、状況を家族に連絡している	重度化した場合は終末期医療について家族と話し合い看取り介護同意書を取り交わしている。協力医クリニックの医療連携体制もある。看取りは5年前にあるがそれ以降はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・防災訓練を行った。 ・緊急連絡網を表示している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・運営推進会議等の近隣住民と協力体制を築いている。 ・避難の表示をしている	避難訓練は年2回実施している。9月に発生した集中豪雨では、目の前の河川が増水し、氾濫の危険にさらされた。この時は豪雨が治まり事なきを得たが、緊急事態での地域連携による防災対策が課題である。	集中豪雨では入居者を2階へ避難させることを考えたが、夜間は職員も少ないので困難であった。日頃から地域の防災協力体制の整備が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様のお部屋へ、入室するときはドアをノックし必ず返事を聞いてから入ります。	言動に気をつけ目線を合わせて話しかけ、名前は「さん」付けで呼んでいる。失禁時はさりげなく耳元でそっとトイレ誘導をしている。訪室時ノックをし入室を伝え返事を聞いてから入るように気配りをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・信頼して頂けるような関係を保てるよう努力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者様の気持ちをしっかり聞かせて頂いて希望に添って支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・要望により理、美容師に来てもらい、散髪やカラーをしている ・職員全体ではエレガンスについては話合い関わっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者さんとスタッフが同じ食卓を囲み楽しく工夫している。	献立はその日の朝に決めている。入居者の希望の五目・くるみ・さつま芋御飯は希望あるごとにメニューに入れ、入居者と職員は同じ食卓を囲み食事をしている。外食は、外出時の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・盛り付け(ミキサー食)、色取等を工夫する ・季節の素材を提供している(施設の畑含む)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・起床時、就寝時、声かけや一部介助にて行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・個人の気持ちを気配り行っている。 ・利用者様に添った支援をしている。	野菜を中心とした食材使用で便秘が減少している。居室での尿臭解消はトイレ誘導をし、まめにパットやラバーシートを換えることにより抑えられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を中心とした献立作り、食物繊維、ヨーグルトによる調整も行っている。 ・医師の指示にて、下剤の服用も考慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・個人の気持ち体調にを気配り行っている。 ・利用者様に希望に添った支援をしている。	入浴は週2回と決めている。寒くなると、入浴をおっくうがる人はいるが、拒否者はいない。職員意見では「入浴は安眠、便秘予防、病気発見等に役立つ」との声が聞かれた。	入浴は健康管理や体調改善につながる。入居者の思いにそった入浴支援を考えていただきたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・声がけして、不安無く眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・一人ひとりの服薬の確認を行っている。 ・病状の変化は日々把握し申し送り等されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・月2度の民謡やスマイルカフェ、等の地域交流にて行っている。又レクリエーション、カラオケ等を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・スタッフと一緒に散歩、外出している。 ・また家族の方と外出の機会がもてている。	日常的に川辺を散歩する人が多く、車椅子の方にも五感刺激のため外出支援をしている。定期的に果樹園や植物園の見物に出かけ、外食も楽しみにしている。家族と一緒に買い物、墓参り等に出かけることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・個別にお小遣い帳作成しホームで管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望時支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節の花や飾りつけ、写真、絵等飾っている。	廊下には、ろう学校の生徒と共同制作した折紙が飾られている。入居者はその時の思い出を今でも話している。願い事が書かれた七夕の写真やハロウィンで仮装した写真などが所狭しと飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・利用者様同士居室を訪ねたり、各自テレビを見たり好きなようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使い慣れた生活用品、家具類を設置して居心地よくしている	入居者希望で畳部屋もあり転倒防止にもなっている。各居屋はエアコンで温度調整している。居室掃除は毎日職員が行っている。手作りお手玉や孫の描いた本人の顔や写真も飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・廊下に歩行バーを設置して自力歩行などして頂いている。 ・各自カレンダー温度計を設置している。		